

安全文化の崩壊（怖いよ～）

症 状

ルールがあっても守られず、守られなくても誰も止めない状態

「安全文化」って何？

典型的サイン

- ・ルールより“慣れ”が優先
- ・形式的な点呼・点検
- ・ヒヤリハットが上がらない
- ・「これくらい、まっいいか」が常態化 「見て見ぬふり文化」が定着
- ・現場の疲労・不満が放置
- ・管理者が現場を見ない
- ・事故が起きても「本人のミス」「本人の気のゆるみ」で片づける

崩壊の3つの根本原因

協力会社さんに、このような症状ありませんか！
危険です！！

1. 過剰な効率追求
 - ・運賃下落 ・過当競争 ・人手不足 ⇒安全より効率が優先！
2. 疲労・人員不足
 - ・過労運転、判断ミス、整備遅延
3. 管理者の機能不全
 - ・点呼・教育が形骸化 ・現場の声が届かない ・監査・チェックが後追い
⇒“見て見ぬふり文化”が定着

安全文化の再構築（4ステップ）

1. トップのコミットメント
 - ・「安全最優先」を明確に宣言！ 数値目標ではなく「行動目標」に 管理者の評価に安全を組み込もう
2. 現場の声を吸い上げる
 - ・ヒヤリハットの“出しやすさ”を作る ・失敗を責めない ・現場の改善提案を即！反映
3. ルールの“運用”強化 “仕組化”に
 - ・点呼・点検・教育のレベルアップ ・管理者が現場に出る ・ルール違反を放置しない！！
4. 成功体験の共有、文化に！！
 - ・安全行動を褒める ・事故ゼロより“良い行動”を評価 ・小さな改善を全員で共有 文化！！ “行動の積み重ね” 会社の習慣、社風

《つぶやき：現場の声が教えてくれること》

昔、ある運送会社のドライバーさんが、信号待ちをしていた大型トラックに追突しました。

こちらは4t車。ハンドルがお腹に食い込んで、窓を少し開けて「助けて…」と絞り出すように言っていたそうです。明け方の事故でした。

その話をしてくれた管理職の方は、目を真っ赤にして言いました。

「限界を超えていたんだよね。」

決して

「気が緩んでいたんだ」とは言いませんでした。

居眠り運転でした。子どもさんが生まれて間もないドライバーさんでした。実は、私は、「プロドライバーじゃないです。プロなら左に寄せて止まるべきです」と言いました。今でも、その時の自分が恥ずかしくてなりません。

—皆さんの周りの同業者を、改めて見てみませんか。

異常が日常になっていないでしょうか。

気づかないうちに、無理が“当たり前”になっていないでしょうか。

変えることのできるものを変える勇気を。

変えることのできないものを受け入れる冷静さを。

そして、その二つを見分ける知恵を。

—